

お祖師さまをお訪ねする物語 第19回



誕降大士日蓮高祖 800年慶讃

承久四年（一二二二）二月十六日、お祖師さま（高祖日蓮大士）は、安房国（千葉県）の小湊で、漁師の子として生まれられ、名前を「善日鷹」と名づけられたんだ。今回は「誕生したときの三奇瑞（三つの不思議なこと）」と「誕生寺」についてのお話をするね。

誕生寺の巻

承久四年（一二二二）二月十六日、お祖師さまは、安房国（千葉県）の小湊という漁村（漁師さんが住んでいる海辺の村）で生まれたんだよ。お父さんの名前は貫名重忠、お母さんは梅菊といい、お祖師さまの幼名（子供のときの名前）は善日鷹というんだ。

お祖師さまが、誕生したとき三奇瑞（三つの不思議なこと）がおこったといわれているんだ。

一つ目は「誕生水」。お祖師さまが生まれたとき生家の庭に突如（きゆうに）清らかな水（澄みきったきれいな水）が湧き出したんだよ。二つ目は「蓮華ヶ淵」。夏に咲く蓮の華が二月という時期に浜辺にたくさん咲いたんだよ。そして、三つ目は「鯛の浦」。小湊の港に鯛の大群が押し寄せ、海面をはねまわって泳いだというんだよ。とても不思議だね。



お祖師さまが生まれたとき、庭から水が湧き出し産湯に使った「誕生水」、小湊の浜辺には季節外れの蓮の華が咲いた「蓮華ヶ淵」、海面に鯛の群れが集まった「鯛（妙）の浦」の「三奇瑞」が伝えられている

また、お祖師さまは、仏さまが亡くなった二月十五日という日の翌日（二月十六日）に生まれているから、これも本当に不思議なことだね。何か仏さまの正しい教えを弘めるために、この世の中にお生れになった感じがするね。

もちろん、これらは伝説（言い伝え）だけど、こうした伝説が語り継がれているということは、それだけお祖師さまが、偉大（すくれて大きい）なお方であったという証拠（事実真相を明らかにするもの）なんだね。

誕生寺

お祖師さまが、お母さんの病氣平癒（病気が治りよくなること）を祈り、四年のあいだ命を延ばされたんだけど「平成三十一年三月号の「お祖師さまをお訪ねする物語」



誕生寺祖師堂
お祖師さまの像を安置する祖師堂は弘化三年（一八四六）に建立された。総樑（けやき）造り18間4面、高さ95尺。堂内に52本の樑の柱と用材は江戸城改築用として、伊達家の藩船が江戸へ運ぶ途中、遭難したものを譲りうけたもの

を読んでね）、そのときお母さんが住んでいた家を道場としたのが、現在の「誕生寺（日蓮宗大本山）」のはじまりなんだね。
建治二年（一二七六）十月、お祖師さまのお弟子の日上上人が、興津（千葉県勝浦市）の領主（領土の持ち主）の援助（困っている人に力を貸すこと）をうけて、この道場をお寺として「高光山日蓮誕生寺」と名づけたんだよ。

その後、二度の大地震と津波で流され、宝永時代（一七〇四年～一七二一年の間）に水戸光圀（江戸時代前期の常陸国（茨城県）水戸藩主・徳川家康の孫）の援助をうけて、現在の地に再建され「小湊山誕生寺」と改められたんだね。

現在の誕生寺祖師堂は、弘化三年（一八四六）に完成したもので、当時、江戸城に運ばれるはずだった材木が、途中、難破（暴風雨などで船が破損・沈没すること）して、誕生寺の祖師堂で使われたんだ。当時は国内随一（国で一番）の大きなお寺だったんだよ。



お祖師さまご生家跡
明応・元禄の大地震により海中に没す。お祖師さまの誕生の時、蓮の華が咲き誇ったことから「蓮華ヶ淵」と呼ばれるようになった



日蓮聖人ご幼像（誕生寺境内）
日蓮聖人ご幼像は、1935年（昭和10年）の建立で、右手に数珠、左手に経巻を持った銅像で、お祖師さまがまだ善日鷹と称していた12歳の日の姿